

## 神奈川県考古学会の20周年を迎えて

岡本 孝之

1990年に結成された本学会も、20周年を迎えることができました。会員諸氏と考古学関係者の不断の努力、および全国の考古学に関心をもつ人々の応援の賜物であり感謝申し上げます。

考古学は、すでに150年の近代の歴史があります。横浜はその主要な舞台として多くの先人の活躍がありました。そして、全国にもまれな遺跡の密集地帯であることが明らかにされてきました。大山の山頂にも遺跡は発見されていますし、相模湾岸の海岸遺跡も多くあります。旧石器の人々以来、神奈川県のすべての空間が、活用されてきました。遺跡は、居住地だけでなく、狩場、採集場、漁場などが検討されなければならない、多くの未発見、未調査地を視野に入れた検討が必要とされています。埋蔵文化財包蔵地と認定されている土地は限定されていますが、考古学的な空間は地球上のすべての地が対象となるのです。すべての地空を対象とするには、地球上のすべての人々が考古学に関心を示さなければ達成できません。

貝塚は、縄文時代の食料文化を知ることのできる重要遺跡ですが、神奈川県では400箇所があるだけです。指定史跡として保存された貝塚もある一方、所在すら再確認できない貝塚もあります。先人の研究成果が継承されていない実例です。この断絶を埋めたいと願っています。

考古学にかかわった先人も、著名な研究者だけでなく、できるだけ多くの人を掘り起こす必要性があります。考古学に関心を示した先人の

足跡を掘り起こしたいと願っています。

そのためにも神奈川県の博物館施設の充実を願っています。考古学資料を全面展開した博物館が必要とされています。また、社会教育、生涯教育に役立てるためにも、多くの遺跡の国指定を達成し、遺跡の整備をしていかなければなりません。

遺跡はこの30年ほどで掘りつくした感もありますが、とくに港北ニュータウン地域では、実際多くの遺跡が調査されて遺跡としては失われました。遺跡の調査は、経済の停滞とともに低調化していますが、歴史の研究はどんな時代にあっても休むわけにはいきません。遺跡が少なくなればなるだけ丁寧な調査が必要となるでしょう。そして、これまでの膨大な成果をわかりやすい説明で、要点をまとめることが常に求められるでしょう。

20周年記念事業として、これまでの遺跡調査研究発表会や考古学講座に新しい試みを検討していますが、さらに新しい事業に挑戦したいと思います。すべてのものに考古学が成立します。世の中のすべてを考古学する、ということを実現できたら世の中が変わるのではないかと期待します。市民の考古学活動の場として、本学会の役割があるのではないかと思います。これからもよろしくご支援いただけますよう、心からお願い申し上げます。20周年のご挨拶とさせていただきます。

## 2010 年度総会を開催

さる5月8日(土)、2010年度の総会を神奈川県埋蔵文化財センターにて開催し、43名参加されました。ここに総会の内容を報告します。

会則に則り、岡本孝之会長を議長に選出した後、以下の4つの議事が総会に諮られました。

### 議事1 2009年度事業報告

(総務)2009年度総会を、2009年5月9日に、神奈川県埋蔵文化財センターにて開催。総会後に「かながわ考古学トピックス2008」で、中村耕作さんと宇都洋平さんに考古論叢の発表内容の講演をいただきました。年度中は役員会及び幹事会を開催。

(会誌)『考古論叢神奈河』第18集を2010年3月31日に発行。4本の論文等を所収。

(連絡誌)『考古かながわ』第42号(10月)、第43号(3月)を刊行。

(考古学講座)2010年3月2日、横浜市歴史博物館講堂にて「かながわの旧石器時代のムラと住まいを探る」と題して開催。参加者は146名。

(発表会)第33回神奈川県遺跡調査・研究発表会を2009年10月17日に横浜市歴史博物館講堂にて開催。参加者は160名。発表は、午前中に小特集「神奈川の遺跡を守る～保存目的の調査～」と題して、綾瀬市神崎遺跡、鎌倉市大町釈迦堂口遺跡、山北町河村城跡、横浜市日吉台地下壕の4本の調査報告が行われました。

午後からは、縄文時代と中世、近世・近代の計4本の調査報告が行われました。

(遺跡見学会)見学会を3回開催しました。1回目は、2009年6月7日に相模原市の田名向原遺跡旧石器時代学習館と遺跡公園を見学し、その後、相模川で石器づくりを行いました。参加者18名。2回目は、同年11月21日に東京都国分寺市の武蔵国分寺・尼寺を散策。参加者22名。3回目は、2010年3月13日に川崎市の野川神明社南遺跡の発掘調査現場を見学。参加者

は30名。延べ参加者数は70名になります。

(ホームページの運営)2007年度に開設したホームページ「神奈川県考古学会 考古かながわ」の管理・運営を行いました。また、メーリングリストの運営も併せて行いました。

(20周年記念事業積立)20周年記念事業のために150,000円の積立を行いました。積立総額は、2006年度から2009年度分を合わせて1,200,000円となっています。

### 議事2 2009年度収支決算報告

2009年度収支決算が報告されました。また、2010年4月20日に会計監査を実施。金銭出納簿、証拠書類等を精査し、預金残高と照合した結果、誤りなく適正に処理されていると監事より会計監査報告が行われ、収支決算報告とともに拍手をもって承認されました。

### 議事3 2010年度事業計画(案)

(総務)総会は2010年5月8日、神奈川県埋蔵文化財センターにて開催。総会後に、「かながわ考古学トピックス2009」を開催。2ヶ月に1回程度の間隔で役員会・幹事会を開催し、年6回程の開催を予定。

(会誌)「考古論叢神奈河」第19集を2011年3月に刊行予定。

(連絡誌)「考古かながわ」第44号、第45号を発行予定。

(考古学講座)2011年1～3月頃に開催予定。

(発表会)第34回神奈川県遺跡調査・研究発表会を2010年10～12月頃に開催予定。

(遺跡見学会)県内の発掘調査現場などにおいて年3回の開催予定。

(ホームページの運営)「神奈川県考古学会 考古かながわ」の運営を継続し、一層の充実を図ります。

(20周年記念事業)20周年記念事業のために1,200,000円の積立の内、事務局・会誌・発表会・講座に550,000円を予算に計上します。

2009年度 収支決算報告

(収入の部)

節	予算額	決算額	比較増減額	説明
会費	1,146,000	1,236,000	90,000	旧年度会費 3,000 × 81 名 = 243,000 本年度会費 3,000 × 300 名 = 900,000 次年度会費 3,000 × 31 名 = 93,000
機関誌等売り上げ	600,000	606,910	6,910	発表会要旨 91,490 考古論叢 155,100 講座要旨 360,320
雑収入	5,000	900	4,100	送料/預金利子/他 900
繰越金	931,030	931,030	0	931,030
合計	2,682,030	2,774,840	92,810	

(支出の部)

節	予算額	決算額	比較増減額	説明
事務局費	170,000	126,860	43,140	連絡費 70,735 会場借上費 20,030 事務費 5,725 行事開催費 1,200 賞金 0 会費振込手数料 29,170
会誌費	500,000	1,160	498,840	連絡費 940 事務費 220 印刷費 0 謝礼 0
連絡誌費	200,000	149,145	50,855	連絡費 3,820 謝礼 0 印刷費 145,325
発表会費	460,000	261,869	198,131	連絡費 21,950 会議費 12,094 行事開催費 32,000 印刷費 195,825 謝礼 0
講座費	430,000	350,313	79,687	連絡費 5,840 会議費 0 行事開催費 67,498 印刷費 261,975 謝礼 15,000
見学会費	95,000	51,300	43,700	連絡費 40,820 会議費 4,630 行事開催費 5,850 謝礼 0
ホームページ運営費	60,000	35,910	24,090	会議費 0 HP使用料 35,910 サーバー年間(2009.4~2010.3)使用料金
記念事業積立金	210,000	204,360	5,640	積立金 150,000
				連絡費 54,360
				会場借上費 0
				事務費 0
予備費	557,030	0	557,030	
合計	2,682,030	1,180,917	1,501,113	

収入 ( ¥2,774,840 ) - 支出 ( ¥1,180,917 ) = 次年度繰越金 ¥1,593,923

議事 4 2010 年度収支予算案

議事 3 の事業計画案とともに 2010 年度収支予算案が審議され、拍手により承認されました。

その他

役員活動に関して、会議への交通費等これ

まで自弁としてきたものを、部分的でも会から支給できないか提案があり、今後、支給額の基準や支給方法等を検討していくことで了承されました。また、会の発足 20 周年を迎え、長期的かつ継続的視野にたった会の活動を行っていく必要があるという提案がありました。

2010年度 収支予算

(収入の部)

節	予算額	前年度予算額	比較増減額	説明
会費	1,026,000	1,146,000	120,000	会費 3,000 円 × 342 名 = 1,026,000 円
機関誌等 売り上げ	600,000	600,000	0	発表会要旨・考古論叢・講座要旨等売り上げ
雑収入	5,000	5,000	0	預金利子・雑収入等
積立金取崩	550,000	0	550,000	20周年記念事業費積立金より取り崩し
繰越金	1,593,923	931,030	622,893	
合計	3,774,923	2,682,030	1,092,893	

(支出の部)

節	予算額	前年度予算額	比較増減額	説明
事務局費	190,000	170,000	20,000	連絡費 100,000 会場借上費 30,000 事務費 20,000 行事開催費 10,000 会費振込手数料 30,000
会誌費	1,120,000	500,000	620,000	連絡費 10,000 事務費 10,000 印刷費 1,090,000 考古論叢 18集と19集2冊刊行、 20周年記念事業費込み 謝礼 10,000
連絡誌費	200,000	200,000	0	連絡費 20,000 事務費 30,000 印刷費 150,000 年2回発刊予定
発表会費	650,000	460,000	190,000	連絡費 25,000 事務費 5,000 行事開催費 60,000 印刷費 500,000 20周年記念事業費込み 謝礼 60,000 外部講師依頼 20,000 円 × 3人
講座費	620,000	430,000	190,000	連絡費 10,000 事務費 10,000 行事開催費 100,000 印刷費 440,000 20周年記念事業費込み 謝礼 60,000 外部講師依頼 20,000 円 × 3人
見学会費	95,000	95,000	0	連絡費 70,000 連絡八ガキ代等 事務費 10,000 行事開催費 5,000 謝礼 10,000
ホームページ 運営費	60,000	60,000	0	事務費 10,000 サーバ-使用料 40,000 謝礼 10,000
記念事業 準備金	60,000	210,000	150,000	連絡費 40,000 会場借上費 10,000 事務費 10,000
予備費	779,923	557,030	222,893	
合計	3,774,923	2,682,030	1,092,893	

(記念事業積立金)

収入の部		支出の部	
2006年度	750,000	2006年度	0
2007年度	150,000	2007年度	0
2008年度	150,000	2008年度	0
2009年度	150,000	2009年度	0
2010年度	0	2010年度	550,000
合計	1,200,000		550,000

事務局	20,000 円計上
会誌	150,000 円計上
発表会	190,000 円計上
講座	190,000 円計上
合計	550,000 円計上

2010年度積立金残金総額

650,000 円
-----------

## 考古学講座「かながわの旧石器時代のムラと住まいを探る」を聞いて

柴田 亮平

平成 22 年 3 月 7 日、平成 21 年度考古学講座「かながわの旧石器時代のムラと住まいを探る」が行われました。

まず基調講演として、安蒜政雄氏が旧石器時代の村と住まいについて話をされました。日本の旧石器時代は石器の編年によって 5 期に区分されることを指摘し、時期によってムラの構えやイエの造りが変化していったことを述べられました。

イエの造りは石器ブロックがイエ跡と直結していた可能性が高い事を指摘して、これらは柱穴や炉を持たない簡便な造りのイエだったと述べられました。それとは反対に、相模原市田名向原遺跡のような炉や柱穴をもった堅牢な造りのイエが存在し、これは旧石器時代の後半に登場したことを述べられました。さらに、石器ブロックと礫群の重複関係から、当初は屋外で共用されていた礫群が、徐々に屋内で使用され、やがて炉に移り変わっていく点を指摘しました。

ムラの構えも環状のムラ、川辺のムラ、小さなムラへと変遷していった事を述べられました。また、旧石器時代人は移動生活を営んでおり、各ムラには時間的、空間的な連鎖があることを述べられました。

最後に遺構の最小単位であるブロックを、明確に認定できないこと等、旧石器研究の課題を指摘されました。

各論 1「旧石器時代各時期のムラを探る」では旧石器時代を 5 期に分類して、各時期の石器群の分布状態と遺構のあり方について発表しました。

最初の段階として相模原市津久井城跡馬込地区を取り上げ、B 4 層相当の石器群、居住形態について畠中俊明氏が発表を行いました。この遺跡では環状ブロック群が確認されています。各ブロックの石材の分布や接合率の高さから、このブロック群は異なった集団が、それほど長

くない期間共存し、石器製作を行った作業空間であると推察しました。

これに対して小池聡氏がコメントを行いました。小池氏は、同じく環状ブロック群が確認されている大和市大和配水池遺跡や東京都調布市野水遺跡を例に挙げて、他の遺跡でも似た傾向が確認できることを指摘しました。

次に諏訪順氏が最寒冷期における礫群活動として、海老名市柏ヶ谷長ヲサ遺跡を例として発表を行いました。B 2 層から出土した 4 枚の文化層を中心に取り上げました。検出された礫群と石器ブロックの分布のあり方から、柏ヶ谷長ヲサ遺跡は移動生活を繰り返しながら何度も立ち寄った結果、形成された大規模遺跡であると述べられました。また、用いられている石材が半径 70 km の範囲内に収まる点、北関東の遺跡数が激減して南関東の遺跡数が増加する点を指摘し、寒冷化や浅間山火山の噴火等の環境悪化が行動領域に影響を与えていたことを述べられました。

これに対して伊藤健氏がコメントを行い、武蔵野台地でも同様に、この時期に使用石材の在地化や遺跡の増加が起こる点を指摘しました。

次に吉田政行氏が綾瀬市吉岡遺跡 B 区と藤沢市用田鳥居前遺跡との間で確認された遺跡間接合を例として発表を行いました。吉田氏は 2 遺跡の石器ブロックを比較し、遺跡によって石器ブロックの分布規模や密度に差があることを指摘しました。また、大規模な分布の密度が高いブロックでは持ち込んだ原石を、石核準備段階から剥片剥離作業の最終段階までを行っていることを指摘しました。これらのことから本拠地とする遺跡（吉岡）と、狩猟目的などで一時的に滞在した遺跡（用田鳥居前）を遊動する生活形態を説かれました。

これに対して、服部隆博氏がコメントを行い、川崎市の小規模な遺跡を例に出して、使用痕のある剥片が大規模遺跡で製作され、小規模遺跡で消費されている可能性を指摘しました。

次に鈴木次郎氏が槍先形尖頭器の時期における遺跡のあり方を、清川村宮ヶ瀬遺跡群サザランケ遺跡と綾瀬市寺尾遺跡等を例にして説明し

ました。鈴木氏は石器群の内容や規模、礫群の有無などから、槍先形尖頭器を製作していた拠点的な遺跡の存在と、完成された槍先形尖頭器の供給の存在を指摘しました。

これに対して、及川穰氏が大和市月見野遺跡群を例として、槍先形尖頭器の製作と供給についてコメントを行いました。

次に砂田佳弘氏が細石器段階について取り上げました。砂田氏は石器群・礫群の分布や器種・石材組成などの各属性を取り上げ、時期による変遷を述べました。また、遺構と器種の関係や場の機能の想定のためには自然科学分析データの集約も必要不可欠であることを指摘しました。

これに対して佐藤明生氏がコメントを行いました。佐藤氏は横須賀市打木原遺跡を例にして、長井台地での例を紹介しました。

各論2「旧石器時代の住まいを探る」では、旧石器時代の住居に関係していると考えられる遺構を取り上げ、その特徴と性格について発表しました。

まず、麻生順司氏が田名向原遺跡の住居状遺構について発表を行いました。住居状遺構は拳大の礫が環状に配置されている状況が認められ、その範囲内から石器群が出土したことを紹介しました。石器群は槍先形尖頭器を主体としており、環状の落ち込み(柱穴)、中央部の落ち込み(棟持柱穴) 炉跡と考えられる炭化物・焼土の集中が2箇所確認されたことを述べました。また、遺構の設置された立地として、川のすぐ脇であった点を指摘しました。

これに対して、島田和高氏がコメントを行いました。島田氏は遺物の分布や内容から、遺構内の遮蔽物の存在や、剥片剥離工程の作業内容の限定性を指摘しました。さらに、石器の大半を占めた黒曜石の原産地が複合的であることから、住居状遺構は複数の集団が共同利用した結果ではないかとの考えを示しました。これらの事実と遺跡の立地から内水面漁労が行われていた可能性を示唆しました。

二つ目に栗原伸好氏が速報として、相模原市小保戸遺跡の環状分布を呈する礫群について発表を行いました。B1層下部から4基の礫群が

確認され、それぞれ被熱した礫が石器を囲って環状に分布していました。その中には、台石状の礫や炭化物(炉址であった可能性)、大量の石器を伴った例を紹介されました。

田名向原遺跡の例との比較として、住居状遺構の大きさが約3mであること(田名向原遺跡は約10m)、柱穴や明確な炉址が確認されなかったことが挙げられました。しかし、「住まい」を検討する際に「一定空間を人為的に囲ったもの」という考えを優先して、積極的に評価する姿勢を打ち出しました。

これに対して、御堂島正氏がコメントを行いました。田名向原遺跡の例と小保戸遺跡の例の相違点として規模の違いを指摘しました。逆に共通性として、火の使用、礫による空間の区分(環状の配置)、石器製作の3点を挙げられ、特にについては、その意味を検討していく必要性を主張されました。また、環状の配置の意味について「礫群の使用後の状態を示す一例ではないか」と保坂康夫氏の見解を紹介しました。

最後に白石浩之氏の講評が行われました。白石氏は、今回の講座の興味深かった点として用田鳥居前遺跡と吉岡遺跡の遺跡間接合、津久井城跡馬込地区の環状ブロック群、田名向原遺跡の住居状遺構、小保戸遺跡の環状礫群を挙げられました。

また、シベリアで確認された環状の礫、石囲炉、石器がセットになった住居の例を挙げて、今後の検討を促しました。さらに田名向原遺跡と小保戸遺跡の例を比較して、基調講演で安蒜先生が指摘された「堅牢なイエと簡便なイエ」の存在も示唆されました。

今回、考古学講座に参加して改めて感じたのは神奈川県旧石器時代研究のレベルの高さでした。特に石器ブロックや礫群などの遺構を絡めた時代毎の生活形態の復元は、非常に興味深く拝聴させていただきました。また、田名向原遺跡や小保戸遺跡の事例は今後の研究に期待すると同時に、一定の成果が出た時点で新たに公開していただきたいと願います。



## 神奈川県考古学会設立 20 周年記念事業

今号の岡本会長の巻頭言にもあるように、1990年に設立した本会は、2010年をもってめでたく20周年を迎えることとなりました。つきましては、皆様に以前からお知らせしていたとおり、20周年の記念事業を行うことといたしました。記念事業は皆様からいただいたアンケートの回答などから、毎年秋に行う遺跡調査・研究発表会と春先に行う考古学講座にあわせて20周年にふさわしい講演会を行うということとなり、その第一弾として、11月21日の「第34回神奈川県遺跡調査・研究発表会」におきまして、2つの記念講演をいただくことといたしました。

### 第34回 神奈川県遺跡調査・研究発表会

第34回となりました神奈川県遺跡調査・研究発表会は、昨年に引き続き、会場は横浜市歴史博物館です。三ツ沢貝塚、野川神明社南遺跡、二子塚古墳、小田原城下筋違橋町遺跡の最新の調査成果をご発表いただくとともに、今回は20周年記念ということで、村田文夫氏、大村浩司氏に記念講演をしていただきます。皆様、ふるってご参加ください。

日時：平成22年11月21日（日） 10：00～16：45

会場：横浜市歴史博物館 講堂（横浜市営地下鉄「センター北」駅より徒歩5分）

備考：図書交換会もあります。

内容：

9：40～ 受付

10：00～ 開会挨拶

10：10～ 調査・研究発表

横浜市 三ツ沢貝塚 - 沢渡55番80号地点の調査 -

川崎市 野川神明社南遺跡第2次調査 - 弥生時代の大型住居群・古代の掘立柱建物群 -

秦野市 神奈川県指定史跡 二子塚古墳 - 銀装大刀を副葬する前方後円墳 -

11：50～ 昼食・休憩（横浜市歴史博物館が企画展示中なので、観覧できます）

13：20～

小田原市 小田原城下筋違橋町遺跡第 地点 - 町屋の上水施設と旧東海道の調査 -

13：50～ 休憩

～ 神奈川県考古学会設立20周年記念講演～

14：00～15：00

記念講演1 村田文夫氏「神奈川県考古学会の発足前夜と今後への期待」

15：10～16：10

記念講演2 大村浩司氏「神奈川県考古学会と埋蔵文化財

- 新たな遺跡保護と活用を目指して - 」

16：15～16：35

「神奈川県考古学会の未来へ向けて - 講演を受けて - 」 副会長 中村若枝

16：35～ 閉会の挨拶





## 遺跡見学会のご案内

「秋の勝坂遺跡とその周辺をめぐる」

今回の見学会は、縄文集落を体感できる公園として最近整備された国指定史跡勝坂遺跡を、その周辺に広がる豊かな自然を愛でながら探訪します。当日午前中は「勝坂遺跡縄文まつり」も行われ、楽しいイベントも盛りだくさんです。当日は公園管理棟にて特別展「勝坂遺跡第1次調査出土品展」もご覧になれます。秋の高い空の下、一緒に縄文の頃へタイムスリップしてみませんか？

開催日：11月3日（祝）

時間：13：30～15：00

集合：JR相模線下溝駅改札に13：00  
（13：30現地でも可）

### 見学の流れ

1. 勝坂遺跡第1次調査出土品展（管理棟）
2. 遺跡公園復元住居等（国指定史跡）
3. 勝坂の照葉樹林（市登録天然記念物）
4. 有鹿谷祭祀遺跡と湧水
5. 旧中村家住宅（国登録有形文化財）
6. 勝坂遺跡大山柏調査地点

### 交通アクセス

JR相模線下溝駅下車徒歩20分または下溝駅前バス停から相武台前駅行きバスで上磯部入口バス停下車徒歩5分

\*遺跡公園に駐車場もありますが、混雑するためなるべく公共交通機関をご利用ください。

\*午前中の勝坂遺跡イベント（自由参加）

### 「勝坂遺跡縄文まつり

～たのしい縄文体験ムラ～

土器の野焼き実演、土器づくり、矢じりづくり、縄文アクセサリづくり、アンギン編み、火おこし、クルミ割り&試食などの体験メニュー、弓矢射的ゲーム、縄文探検隊クイズラリーなど盛りだくさん！ふるってご参加ください！  
時間＝9：30～12：00

## ～『考古かながわ』、かわります～

今号で44号目を迎えて、皆様に神奈川県考古学会の様子を年2回お伝えしているこの『考古かながわ』。設立20周年を迎えた今、より会員のみなさまに親しまれる誌面作りを考え、次号から内容を少し変更します。新しい企画もありますので、ご期待下さい。また、新コーナーへの投稿も募集しますので我こそは！という方、ぜひお申し出ください！

### 新コーナーのご案内

- ・「御宝再発見」＝1遺跡につき一品、「これぞ！」という遺物を紹介するコーナー。報告済の資料で、あまり脚光を浴びていないが実はスゴく面白いんだ！というモノを紹介していきます。
- ・「大地の一頁」＝「御宝再発見」の遺構版です。
- ・「セピア考古学雑記」＝神奈川の考古学の黎明期を支えた先生方の、考古学との出会いを綴っていただくエッセイ
- ・「あの遺跡は今」＝遺跡調査・研究発表会などで紹介された遺跡は、今どのようになっているのか？周辺の観光情報なども含めて紹介します。

上記4コーナーに関しては、「私が書く！」という自薦、「この人に書いてほしい」という他薦、大募集！

### 考古かながわ 第44号

発行 神奈川県考古学会  
発行日 2010年9月30日  
編集 中川真人・野口浩史（連絡誌担当）  
印刷 (有)湘南グッド  
発行者 神奈川県考古学会 会長 岡本孝之  
〒252-8520 藤沢市遠藤 5322  
慶應大学 岡本孝之研究室 気付  
郵便振替 00240-9-71208  
e-mail [soumu@koukokanagawa.net](mailto:soumu@koukokanagawa.net)  
URL <http://www.koukokanagawa.net>